

『活動の基本、“ピアザ”って何？後編』—世界に通じるチカラを育てる—第 3 号

今回のテーマは、前回に引き続きセルラスの主な活動の場である『ピアザ』です。

前回は、巷の語学教室に当たり前にあるものが「ない」ことについてお伝えしましたが、今回は「ピアザにある大切なもの」をご紹介します。

では、—世界に通じるチカラを育てる—『多言語広場セルラスメルマガ』第 3 号の目次です。

【 目次 】

◀1> ~人とことばを育て合う『ピアザ』にある大切なもの~

◀2> 『セルラスで楽しい子育て』

◀1> ~人とことばを育てあう『ピアザ』にある大切なもの~

『ピアザ』には、母語習得のプロセスに近い、誰もがことばを話せるために不可欠な環境と活動があります。そのいくつかをご紹介します。

1. 違いは宝物！どんなことばも受け止め聴いてくれる「仲間」がいる！違いを避けるのではなく、興味をもってわかろうとするとところから、コミュニケーションが始まります。そんな仲間のいる場では、ことばがどんどん飛び交い育っていきます。
2. 想像力と創造力を駆使！みんなで楽しむ笑いいっぱいの「ロールプレイ」がある！人はメッセージを伝えるとき、表情、ジェスチャー、声のトーンなどをことばと共に使い、相手のメッセージを聞くときは、それらのすべてを受け止めながら、想像力をフルに働かせてわかろうとします。この伝えあい、受け止め合う体験を多言語でできるのが、セルラスのロールプレイです。
3. 多言語だからできる！メロディーとリズムを捉える「シャドウイング」がある！セルラスのシャドウイングは、最初から区切って一言一言正しく言おうとしません。あらゆる言語には独特のメロディーとリズムがあり、それを捉えることから始めるのがセルラスのシャドウイングです。

他では味わえない大切なものが、ピアザにはまだまだあります！

それらに囲まれながら、私たちはたくさんの人と出会い、人に伝えることばを見つけ、自らに気づき、お互いに影響を与え合いながら、成長し合っています。百聞は一見に如かず。ぜひ一度お近くのピアザに遊びに来てくださいね。

詳しくはホームページからお問い合わせください：<http://www.celulas.or.jp/>

次回はセルラスの人材育成に大切な意味を持つ「プレゼンテーション」の取り組みをお伝えします。体験をことばにほどくプレゼンテーション！どうぞお楽しみに～☆

それでは次に、この『ピアザ』に参加しているメンバーの体験談をご紹介しますと思います。

《2》『セルラスで楽しい子育て』

西宮市在住 福山さん(家族構成:夫・息子小3・娘年長)

娘と多言語

私達家族はセルラスの活動を始めて3年になります。始めた頃は息子が7歳、娘は4歳になったばかりでした。その当時ピアザは17時45分開始で、まだ小さい娘は、ピアザに向かう途中やピアザ中に寝てしまうこともしばしば・・・。

また、兄が聞こえた音を口に出して言って楽しむのに対し、娘は全く口に出そうとせず、そんな状態が1年くらい続きました。ところがその後、娘が5歳半になったころから少しずつ変化してきました。お着替えの時に、セルラスのストーリーブックの会話の中にある、「水玉の靴下どこ？」というセリフを韓国語で問いかけてみると、娘は「ないよ～」と韓国語で答えてくれたり、のどが渇くと「お水ちょうだい」を英語や韓国語で言うようになってきたのです。

最近では、「上手ね」という言葉をスペイン語で言い合うのがちょっとした我が家のブームで、今や娘は多言語のキャッチボールをととても楽しんでます。

娘のさらなる変化！

もう一つ、娘の大きな変化があります。

始めのころは、私の後ろに隠れて自己紹介もできなかったのに、最近はどんな国の人がいてもたくさんの人の前で挨拶が出来るようになったことです。

2月に関西で行われた日韓文化交流基金主催の交流会では、100名以上の人前に出て、韓国語で「日本へ来てくださってありがとうございます」という内容の挨拶も出来ましたし、またある時は、ピアザで初めて会ったドミニカ共和国の留学生にスペイン語で自己紹介も出来ました。

今、娘が自分の中でどんどん自信をつけていくのが手に取るようにわかります。

仲間と一緒に。

このように娘が成長したのは、ピアザの仲間が、恥ずかしくて人前に出れなかった頃から常に温かく見守り、言えなくても大丈夫、きっと出来るようになるよと励ましてくれたからだと思います。一言でも言えた時はとても褒めてくれて、その積み重ねから、娘はやれば出来るという自信を持っていったように思います。

ピアザの中では、みんなが子ども達を見守ってくれていて、親がなかなか褒めることが出来ない小さな頑張りも、惜しみなく褒めてくれたり、また、悪いところはピアザのみんなが叱ってくれて、自分一人でなく、皆に育ててもらっているという安心感があります。

先日ピアザでこんなことがありました。普段はなかなかメンバーとあまり関わろうとせず、「一緒にやろう！」と誘っても本当は出来るのに「嫌やし。俺そんなんせえへんし。」という感じだった小学生の男の子が、電車で外国の人に自ら英語で話しかけ、マレーシア語の挨拶まで教えてもらったことを堂々とみんなの前で発表してくれたのです。

さらには、みんなにマレーシア語の挨拶を教えてくれて、ピアザメンバーは、彼の成長ぶりを我が子の事のように喜び、子ども達にとっても、とても良い刺激になる出来事でした。

どんな子どもの中にも、良くなりたい！という想いは必ずあるのだと思います。子どもの今の状態を頭から否定せず、子どもの中にある可能性の芽を、たくさんの人の目や声かけでしっかりと育てていく土壌となっているピアザは、今の日本ではなかなか得がたい環境で、子育て中の私にとっては本当にありがたいです。

このメールマガジンは、これまでセルラスが開催した『多文化教育セミナー』に参加されるなど、私どもの活動にご興味を寄せていただいた皆さんにお送りしています。

セルラスの多言語習得や異文化体験、楽しい交流の活動を、より多くの皆さんに知っていただくために発行しています。

日頃の私たちの活動やご家族で参加いただけるイベントやセミナーなどのお知らせをお届けします。